



おサイフケータイが家の鍵に 合鍵はネットで発行

文：外村克也（編集部）
Text: Hokamura Katsuya

KESAKAシステムは、おサイフケータイを、マンションのエントランスや自宅のドアの鍵代わりにするという事業に取り組んでいる。居住者の利便性を高め、活況のマンション販売において競争力を高めるのが目的だ。

鍵は住居の不正侵入を防ぐ要。従来、防犯効果と利便性はトレードオフの関係（たとえば鍵穴を2重化すると解錠の手間が増える）にあった。しかし同社の「FeliCa鍵」は、タッチするだけで施・解錠でき手軽。携帯電話紛失時は居住者側の操作で鍵を作り直せるなど防犯効果と利便性を同時に高めた。

この電子鍵は約150棟のマンションに導入済み。仕組みも、開発当初の自宅の鍵を携帯電話で開ける単純なものから、ネットを使った高度なものに発展している。

たとえば、エントランスでおサイフケータイをかざすと、自動的にエレベーターがフロアまで出迎える。部屋の鍵をかけ忘れた際、携帯電話で出先からでも施錠が行える。その日だけ使える合鍵を携帯電話で発行できたりもする。取り組みをはじめたのは、NTTドコモ九州からの提案がきっかけ。「マーケットインで始った事業だが、当時お

サイフケータイがまだ世に出始めたばかりで、手探りだった」と取締役の大野祐治氏は語る。通話しながら解錠できるのか？といった疑問や、停電時にもセキュリティを保ちながら部屋に入るための仕様決め、携帯電話紛失時の合鍵の発行方法など、実験を繰り返して、時間をかけて作った。

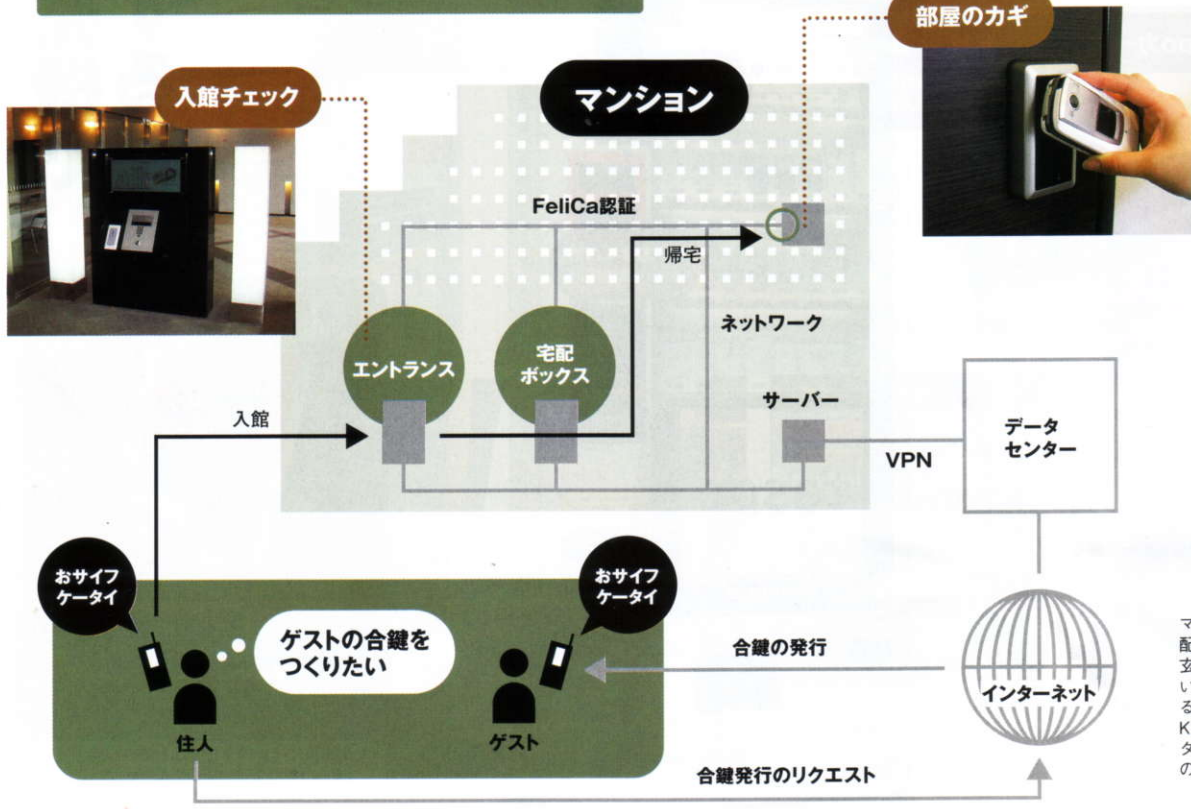
電子鍵の販売を始めてから3年が経つが「大きなトラブルもなく順調」と大野氏。ユーザーの反応は「意外にも、鍵を差し込むといった細かな作業を苦手に思う、高齢者の方にも好評」という。

今後は賃貸マンションや、ホテルへの導入に事業を拡大していく予定だ。



株式会社KESAKAシステム取締役の大野氏。高級住宅への採用が多いが、ネットワークにつながるシンプルな仕様のもので、幅広いラインナップがあるという。

タッチで解錠、今日だけ使える時限合鍵の作成も



マンション内のエントランス、宅配ボックス、エレベータ、自宅の玄関はネットワークで繋がっている。住人が合鍵の発行をする場合、インターネット経由でKESAKAシステムが持つデータセンターが鍵を発行、ゲストの携帯電話に届く仕組みだ。